

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

| | |
|-------------------|-------------------|
| 平成 26 年 11 月 20 日 | |
| 所属部局・職 | 野生動物研究センター・博士課程学生 |
| 氏名 | 田島夏子 |

| |
|--|
| 1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域) |
| 東京都御蔵島・三宅島 |
| 2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験) |
| 御蔵島周辺に生息するミナミハンドウイルカの個体識別調査及びペア遊泳行動の観察 |
| 3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで) |
| 平成 26 年 8 月 20 日～9 月 27 日・10 月 5 日～10 月 20 日・10 月 25 日～11 月 16 日 |
| 4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏) |
| 御蔵島観光協会 小木万布 |
| 5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由) |
| 写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。 |
| 今回の渡航は、以下のような日程で行った。 8 月 21 日 御蔵島着 8 月 22 日-9 月 27 日 御蔵島にて調査 9 月 27 日 京都着 10 月 6 日 御蔵島着 10 月 6 日-20 日 御蔵島にて調査 10 月 20 日 京都着 10 月 26 日 御蔵島着 10 月 26 日-11 月 14 日 御蔵島にて調査 11 月 14 日 三宅島着 11 月 14 日→16 日 三宅島にて調査 11 月 16 日 京都着 |
| 本渡航の目的は、1994 年から御蔵島で行われている御蔵島周辺に生息するミナミハンドウイルカの個体識別調査を行うことであった。調査は、商業イルカウォッチング船に同乗させていただき、計 67 回の出航を行った。調査は、イルカ発見に伴い、入水し、イルカの群れを水中ビデオにて撮影した。総撮影時間は 19 時間 26 分であった。撮影の様子は、写真 1 の様である。 |
| 出航しない場合は、陸上で撮影した映像の解析を行った。撮影した映像をパソコン上で再生し、映像に映っている個体のヒレや体表面の傷やカケなどの自然標識から、調査開始時から御蔵島観光協会に蓄積されている各個体の特徴のデータと照らし合わせ、個体識別作業を行った。個体識別作業の様子は写真 2 の様である。調査期間中に撮影した全ての映像の解析が終了した。今回の調査期間中に御蔵島周辺に生息が確認されたイルカの全頭数は 131 頭であることが明らかになった。昨年に引き続き観察された個体は 120 頭、昨年までは観察されていたが、今年は確認されなかった個体が 5 頭、新しく誕生した個体が 11 頭の内訳であった。また、各個体の DNA 情報を得るために、水中で排フンが見られた場合は、その個体を撮影又は目視で個体識別を行い、フンを採取しエタノール処理を行った。調査期間中に採取した糞サンプルは 38 個体由来の 65 サンプルであった。(写真 3) |
| 調査中に、2010 年まで御蔵島で観察され、その後千葉県館山沖や、静岡県神子元沖などで生息が確認されていた個体が、御蔵島個体群にて観察された。これで、御蔵島にて個体識別されている個体が他地域に移出した例は計 23 頭であり、さらにその後御蔵島に戻りが確認された個体は計 4 頭となった。今年初産のメスイルカは 3 頭であり、今年から親離れが確認された個体は 5 頭であった。 |
| また、御蔵島と同様にイルカウォッチングを行っている三宅島にて、調査を行った。御蔵島で 2013 年まで生息が確認され、その後 2014 年に三宅島周辺にて生息が確認されていた個体の生息がイルカウォッチング船 |

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

の船頭への聞き込みで明らかになったと同時に、漁船に同乗しての調査によってこれまでに三宅島周辺の生息が確認されていなかった本種個体を観察することができた。しかし、船上では個体識別が不可能であったため、今後さらに現地のイルカウォッチング業者の方からの情報提供などから、新しく御蔵島から三宅島に移出した個体であるか、確認する予定である。

今後は、自らの研究テーマであるペアスイムの有無の記録を行う予定である(写真4)。複数個体と同じ方向に近接して泳いでいる場合をペアスイムとし、その際のペアを個体識別し、胸ビレで相手の体をこするラビングや体の一部分を接触させながら泳ぐコンタクトスイム、また呼吸が2秒以内の時間差で同期する同調呼吸などの社会行動の有無を記録する予定である。



写真1 水中ビデオ撮影の様子(撮影:藤里美奈子)



写真2 個体識別作業の様子

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真3 糞採集の様子と、処理後の糞サンプル



写真4 群れ遊泳中のペアスィム個体（右2個体）

6. その他（特記事項など）

ウォッチング船に快く乗せてくださった船頭、ガイドの皆様に深く感謝いたします。調査への激励、協力をいただいた御蔵島の皆様にも心からお礼申し上げます。